

### 第3回神奈川県地方創生推進会議議事録（第2分科会抜粋版）

名 称：第3回神奈川県地方創生推進会議

開催日時：平成27年9月3日（木曜日） 午前10時00分から12時00分まで

開催場所：神奈川県自治会館 3階 会議室No. 2  
横浜市中区山下町75番地

出席者：◎牛山久仁彦、○齊藤英和、石井紀彦、浦川竜哉、大橋由紀子、黒田聡、小室淑恵、ジギャン・クマル・タパ、白河桃子、関ふ佐子、露木徳行、富田幸宏、富山英輔、畑野耕逸、平位武、平井竜一、平松廣司、三崎幸恵、蓑宮武夫、室田昌子、望月淳、山崎哲雄、ルース・ジャーマン・白石、若生正之、秋山怜史、石本宇、桂由佳、菊地加奈子〔計28名〕（順不同）（◎は座長、○は副座長）

次回開催予定日：平成27年10月21日（水曜日） 13時00分から15時00分まで

問い合わせ先：政策局政策部総合政策課政策調整グループ 星野春雄

電話 (045)210-3056（直通）

ファクシミリ (045)210-8819

---

## 2 議事

### 議題1 神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略中間とりまとめ（案）について

#### 【第2分科会】テーマ：神奈川への新しいひとの流れをつくる

○ 牛山座長：先ほど事務局からご説明いただきました、資料1、これをこの中で議論していきたいと思えます。基本目標2がこの分科会の議論のテーマとなっておりますので、少人数ですし、ざっくばらんにいろいろご議論をいただきたいと思えます。

それで、基本目標2では、前回は少し議論させていただきました、まず三つの丸がございまして、この基本的方向の3点、これらを確認させていただきながら、具体的にどういうことをしていったらいいのかということ、皆さんにこれをベースに議論の題材として進めさせていただければと思っております。

まず、丸が三つございませけれども、一つ目、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、国内はもとより、インバウンド観光も呼び込むため、新たな観光の魅力づくりを進めるとともに、観光プロモーションの強化を図る。」と、こういう形になっております。それから、「地域の特性や資源を活用したプロジェクトを推進するとともに、商店街をはじめ、地域の魅力に磨きをかけて、人を呼び込み、引きつけるマグネットをつくり、地域活性化を図る。」と、3番目に、「県内各地域の魅力を生かした個性的なライフスタイルを発信し、県内への移住を促進する。また、若い世代への雇用対策などとともに移住支援を行い、地域の魅力を効果的に発信し、強いマグネット力で企業や人を引きつける。」三つ大きな目標となっているのですけれども、神奈川県の地域特性ですけれど、これも総合戦略は各自治体がやっていると思うのですけれども、神奈川らしい取組みというのはこんなところかどうなのかということや、あるいはこれまでの議論を踏まえて、分科会ですから、少し深掘りをさせていただくということも含めて、ご発言いただきたい

のですが、時間も限られております。一つ一つのご発言は短めに3分程度でいただいて、ご議論していただきたいと思うのですが、まず、この基本的な方向について、ご議論をいただきたいと思うのですが、前回の意見を踏まえまして、どうでしょうか。

○ 山崎委員：では、私から。私どもの会社は相模湾でマリーナを経営しております。逗子マリーナと三浦のシーボニアを経営しております。また、神奈川県は公共港であり、葉山港の指定管理をしております。

今回、この基本目標2の東京オリンピックについては、二通りのお客様の流れがあると思うのですが、一つは東京オリンピック全体で、東京にお越しになるお客様を神奈川としてどう迎えるかというようなこと、それからもう一つは、唯一オリンピック種目の中でセーリング競技が江ノ島に決まりましたので、それに対する受入れということを考えていまして、正に私どもは現場に一番近いというか、会場に一番近い地域として、今回の2020年の東京オリンピックのセーリングについては、昭和39年の江ノ島の大会に比べて、いろいろな面で関わってきているところがあります。江ノ島のメイン会場そのものも、昭和39年は何もなかった所にオリンピック・ハーバーをつくりまして、今現在900隻近いヨットがここにあるわけで、そういったものをやはり周辺が協力をして預からない限りは新たなオリンピックは開催することができないですし、宿泊施設も本当に湘南エリア全体が足りない。また、交通関係も国道134号線が走っているのですが、夏場は大渋滞。今回のように2020年というのは、7月の26日から8月8日という、いわゆる真夏の大会ですので、昭和39年が10月だったのに比べて、7月、8月の開催ですから、そういった点での湘南の大渋滞ということも考えないといけないということで、唯一相模湾で行われていない、シーレーン（海路）が必要と考えております。シーレーンは、東京湾にも駿河湾にもありますが、相模湾にはないということで、オリンピックを含み、しっかりとしたシーレーン（海路）を確立することによって、人の流れという点では今、江ノ島には1,600万人くらい来て鎌倉にも2,500万人来られています。三浦半島になかなか人が流れない。そのあたり、三浦半島はやはり道路が1本で長いというのがあって、そこをうまくシーレーンを活用して人の流れを導くというような工夫が必要ではないかと思っています。

そういうことをすることによって、人の流れが生まれて、最終的には人口増加につながると考えます。

○ 牛山座長：ありがとうございます。全体の確認ですけれども、最初の丸、オリンピックの問題が出ていますが、それに関連して二つご意見が出たのですね。一つは、オリンピック種目というのと、それから東京に来て神奈川にも観光、こういう二つの点でご意見をいただいたと思うのですが、ほかの委員の方、今のご意見を踏まえて、何かございますか。

○ 石井委員：すいません。相模湾の所にシーレーンがないというのは、なぜシーレーンがないのでしょうか。

○ 山崎委員：需要がなかったということで、それを活用しようと思っていなかったとい

うこと。やはり観光ポイントがないので、何か目的がないと、そういったものはあまり発達しないのですね。例えば、三浦半島も城ヶ島は、今ほとんど魅力的なものが何もないですね。神奈川の第4の観光の核と言うことでしたがいまだに人を呼ぶような場所になっていないですね。シーレーンの場合は、かなり先行して道路が先です。それからシーレーンがあるのですが、神奈川海側の状況というものをなかなか伝え切れていないから、シーレーンも発達しないというのがあるでしょうし、もう一つは、実は相模湾は比較的海が荒れる、という少し語弊があるのですが、東京湾の内湾に比べて相模湾は一時期波の高い時期もあるということで、その辺がしっかりとした需要がないと、東京湾のフェリーのように少し霧が出たり、風が吹くと欠航してしまうというのがあると事業が成り立たないことがあるのですけれど、その辺のところをどう見て用意するかということになるかと思えます。

○ 石井委員：神奈川県には神奈川県の方針があると思うので、やはり広く神奈川県全域に満遍なくというか、観光の拠点があると、横浜、鎌倉、小田原、箱根ですか、今度三浦という大山エリアも入れてという感じになると、オリンピックのお客さんだけをいうのだったら神奈川に来るお客さんをベースに、東京に来るお客さんを呼び込むというのと、セーリングに来るお客さんをリピート化させるということだと思っておりますけど、外国人の方というのはお金を使って長く滞在すると聞いているので、やはり神奈川県から出ていかないというか、神奈川県に回遊性のある観光エリアをつくっていく。本当に横浜から三浦に行くのにどうやって行ったらいいか、道がもう三浦縦貫道もそれで切れてしまっていますし、先まで行けないのですよ。じゃあ、海路はどうなのだろうと思っても、海路なんかないのだと思って、なんでないのかというのをお聞きしたのですが、やはり神奈川県的にやるのだったら、多分三浦の発展だったら三浦市がやる仕事だと思うので、それを支援しなきゃいけないのしょうけども、箱根は箱根町でしょうし、大山は伊勢原市、鎌倉は鎌倉市、県全体として見るのは、そういうものを結び付けて回遊性を持たせた観光事業、滞在型、体験型だったりというものもやはりやっていけるようにすると、三浦は体験型だったら結構あるのではないかと思うのですけども。

○ 山崎委員：ちゃんと商品化すれば、コンテンツは多いと思います。

○ 石井委員：そうですね。民宿でも、僕が外国人に聞くと、ラッシュに乗りたいたか、そういう外国人がいるみたいなので、考えてみると、我々は乗りたくないと思いますが、人によって価値観は違うのだなと思うので、そういうのを商品化していく支援をしていくというのは一ついいのではないかと思っています。

○ 牛山座長：多分具体的なイメージとすれば、要するに湘南の方まで行って、そこからこっちに戻らなくても三浦に行ける。だから、例えば静岡なんかに行くと、戸田辺りで沼津辺りから戻っていけると、ああいうことですか。

○ 石井委員：今、清水～土肥間は、フェリーが普通に運航していますね。フェリーとい

うところまでは相模湾は必要ないかと思いますが、あとは小田急で江ノ島に行ったり、江ノ島から江ノ電で鎌倉に行く。その周辺はどうしようかというのを船で三浦半島に行く、又は小田原に行くとか、真鶴に行くとか、そういったところもうまくシーレーンがその隙間を埋められると思いますし、神奈川の海の魅力をしっかりと。

○ 蓑宮委員：羽田に着いたら、多分渋滞があるので、箱根に行くためには小田原の漁港にホバークラフトみたいなもので、ショートカットで行けると。皆さんは見たことないと思うけど、もう江戸時代からある江之浦の定置網というのを僕らはやるのですが、東京からこんなに近い所に山がびゅーっと出たり、ものすごく魚捕りをやっている人の方から行くと。外側からの鎌倉、箱根、小田原を見るというのは、ものすごく。オリンピックも夏だから、そういうことも含めて、僕は非常に東京の市場メインじゃなくて、結構鎌倉だって、多分5年後ぐらいに世界遺産がどうだこうだとかいって。あそこのまちだって相当下りていけばいいのですからね。感動しますからね。小田原の港だって結構大きいわけだから。定置網というのはすごいですよ。一番環境にいい漁法で。

○ 牛山座長：真鶴の定置網なんかは最高で、小田原もそうですよね。

○ 蓑宮委員：小田原もそうです。江之浦も。江戸時代からある漁法で。だから、意外とこれは一つのパッケージにする価値があるのではないですかね。

○ 牛山座長：具体的には、多分法律的な問題とか、あとやはり採算とか、いろいろあると思うので、そこはここで議論しても仕方がない。非常に重要な問題ですね。本当に江ノ島まで来て江ノ電に乗ったりとか、それでさらに船でとか。それが、どんな可能性があるかとか、実際にオリンピックをやるといういろいろな問題があると思いますが、シーレーンというのは一つ考えてみてもいいのではないかと、研究する価値があるということ。

○ 富山委員：宿泊施設にしる、海路の問題にしる、マリーナ含め、船を係留できる施設を整備することにしる、大きくはそのとおりだと思うのですが、それに伴って、逆に神奈川県湘南の自然が壊されて、本来あるべき魅力が失われる可能性もあると。そこは本当に気を付けていかないと、どういうホテルをつくるのか、低層のホテルなのか、高層のホテルなのか、船の係留場所をつくるために海を削るのか、それとも既存のものを整備する範囲でできるのか、海路を開発するに当たっても船着き場をどうするのか、そこは本当に重要な部分だと思うので、今ある自然なり今ある魅力を壊さない方法で、それはもう本当に具体的に一つ一つの問題なので、それをどう監視していくのか、何が良くて何が悪いのか、その魅力の元は何なのかということをよく考えないと、逆に。

○ 牛山座長：神奈川らしい魅力を損なわない、環境に配慮した、ということですね。

○ 富山委員：そうですね。その部分は失われると取り戻せないものだし、特に今のお話ですと海際が活性化することは皆さんにとっていいことだと思うのですが、どうい

海際を含めているのか、ヨットをはじめとしたセーラーの人たちと地域の住民とサーフィンをする人、ビーチでビーチバレーをする人たちとは恐らくそのイメージ図が違うと思うので、それを一つ側からの視点だけで見てしまうのは非常に危険なことだと思います。

○ 牛山座長：やはり進めるにしても、そういう配慮をするということですよ。

○ 富山委員：はい。

○ 牛山座長：黒田委員、例えば小田急で来て江ノ電でと、交通の連携というか、ネットワークみたいなものというのは、どうですか。

○ 黒田委員：まず一つ、多くのインバウンドの方のライフを促すというか、そういう視点については、大変重要だと思います。実際、今箱根で噴火の問題があって、観光客の方というのは激減しております。しかしながら、インバウンドの方が前年を上回っているということで、我々の方の電車に乗っている方でもそんな感じになっているので、インバウンドの方というのが底支えをしている感じがするわけです。やはりインバウンドの方に視点を当てるということは、非常に重要なことだと思います。

そうすると、インバウンドの方から見て、この観光立国・神奈川という視点はどうかということになるのですけれども、インバウンドの方にとりますと、神奈川という視点というのは、正直言って、やはり非常に薄いのです。そうではなくて、やはりグレート東京なのです。大きな東京圏の中の魅力ある地域ですね。だから、神奈川だけで完結するような視点を持つてしまうというのは、非常に危険だと思います。だから、理想という観点で見ても、やはり同じことが言える。地域の交通というのは非常に大事なのですけれども、神奈川だけの視点で見ってしまうと、なかなか難しいなと思います。

それから、具体的なオリンピック・パラリンピックで言うと、江ノ島にオリンピック・パラリンピックがある、来られるということで、これは非常に歓迎するし、我々はそれに対して公共輸送としては多分メインで輸送を担う機関になるわけですが、これもやはり東京から多くのお客様が来られるときに小田急で来る方もいらっしゃるでしょうが、やはり藤沢でJRから乗り換えられる方もいらっしゃるでしょうし、いろいろな所からルートがあるというのは非常に多様性があると思うのですが、そういうところの利便性というのがある程度あった方がいいなと思います。あとシーレーンというのも一つの考え方だと思います。

もう一つ、交通機関として見ると、事業採算性というのが非常に重要な視点になってきます。事業採算制は、やはり非常に難しい問題があるのですよ。例えば、今、羽田空港から箱根直通の高速バスというものが出ているのですけれども、これは1日2往復していますけれども、これが1便当たり乗っている方が数人という状況です。何がいけないのかはいろいろ議論があるとは思いますが、事業採算性上では非常に厳しいと。そういうツールもあるということは一方では重要だと。

○ 牛山座長：それは、噴火の前から。

○ 黒田委員：そうですね。やはりこれは厳しい状況です。観光輸送というのは、非常に稼働もありますが、正直申し上げて、その採算性を取るとというのは非常に難しいのです。区間輸送というのですが、都市間の一般の方が交流するようなものは非常に多くの方が利用されるというのは実態としてあるのですが、そこに観光が上積みであるという構造は非常に事業採算性上いいのですけれども、観光オンリーでやろうとすると非常に厳しいです。

○ 蓑宮委員：今日は、適当に議論していいのですか。

○ 牛山座長：ええ。大丈夫ですよ。

○ 蓑宮委員：特に地方の見どころを磨き上げるだけでかなりすごく、結構いろいろな、私も箱根に行って、吉池なんていったら日本でもものすごく高いのですね。旅館が3万とか、5万とか。ゴールデンウィークに少しといっても、もう中国人が半分ぐらいいるわけですよ。もっと高いと思いますよ。だけど、もうリピーターなのですよ。銀座の爆買いは初めての人のですよ。結構、1回いろいろな機会です。やはりツアーとか、いろいろな所の魅力でいうと、良さが分かると。例えば僕も43か国、ソニーの時代に世界中回っていましたが、スイスとかに行っているより、芦ノ湖のきれいな水と富士山があって、しかも箱根神社の鳥居があって、秋は紅葉、5月は新緑、この1枚の写真を見ただけで世界のどこよりも魅力があるのですよ。これを見たいだけで来るのです。ところが、そこへ行くまでの道中で変な看板があったり、やはりそこへたどり着くまでの地域と連携しないとね。芦ノ湖一つを事例にとっても、あの1枚の写真だけでもものすごく魅力があるのですよ。

もう一つは、箱根湯本の地区には僕も近いからしょっちゅう行っているのですが、噴火の騒ぎの前は、昼間はすごくにぎやかだったのですね。ところが、この箱根の街並みにももちろん大きな旅館が多いということもあるけど、もう7時頃になると全く店が閉まっちゃう。だから、こういうものは多分高い残業代を払ってまで店を開けるメリットがないとか、そういうことはあるかもしれないけど、例えば観光客の目玉になる金・土・日だけは結構シニアのNPOもいるし、若い学生のNPOもいるので連携して、やはり夜までまちを開ける努力をしないと、あの箱根のまち、夜なんて全くどうしようもない。普通の温泉街と違う所なのですよ。だから、ほんの少しゾーンでまちとして連携することによって、ものすごくいいのではないかと。

もう一つ言うと、神奈川の豊かな水を育み育てていきたいと。僕はスイスのツェルマットとか何回か行ったけど、あの雰囲気を守るのはすごいですね。地球上で最後まで水道の水が通常に飲めるまちにしましようと、そのために何を。ごみをどうだとか、この水源地の地域の。これを機会にわずかに磨き上げるだけで、ものすごく魅力的なまちになることは多いのではないかと思うのですよ。なぜかという、これだけ伝統も自然もあらゆるものがそろっているのだから、そういった視点で神奈川県いろいろなものを見直すと、これは世界一の、やはり最後まで地球で水道の水が飲めると。今、地元の人知らないけど、100円出してやって。あんなばかなことをやって、成分分析すると、あれの方がもっと

悪いですよ。本当に。だから、そういうことを、やはり住民を巻き込んでまちぐるみで少し知恵を出し、みんなが協力することによって、すごく磨き上げられたやはりいいスポットになる可能性があるのではないかと。事例としては、今三つぐらいなのだけど、これは神奈川県内のいろいろな所にあると思いますよ。

○ 牛山座長：そこは少し集約的に、こういう所に表現するとしたら、どんな表現をされますか。

○ 蓑宮委員：こちらの表現の得意な人。

○ 富山委員：正に今おっしゃったように、ほんの少しの働き掛けなりで大きく変わるということは本当にこれから大事な視点だと思っていて、そこに例えば巨大ホテルを建てれば人が来るのかということと全然違うと思うのですね。

だから、そのほんの少し、今あるものを少し何かベターにすることで、大きく流れが変わると思うのですが、それをどう表現というか。

○ 牛山座長：文章として表現するとどうなるかということですね。今お話が出たように、市町村はそれぞれ地域の中でその地域に根付いた、それぞれまた個別に出していくと思うのですが、そういう努力を促すような県の広域的な、どこの市町村に対してもこういうことをやってくれるみたいな。

○ 蓑宮委員：いや、専門外で。例えば、今までは何とかの屋敷跡、これは点ですよ。これが少し回って面、この地域はというのは結構世界各国であるけど、これが2次元の展開ですね。3次元は、もう少し空気とか、何か。4次元というのは、まちぐるみでやる、おもてなしですね。4次元の観光とか、そういううまいコピーというのが、あり得るのではないかと思うのですよ。

○ 牛山座長：そうすると、要するに各市町村、あるいは地域が個別に頑張るというのは当然あると思うし、市町村の戦略も多分いろいろ出てくるとは思いますけど、それを少し圏域を広げたり、地域圏みたいなものの魅力を発信できるための施策を県としてやっていくと。市町村と連携する、あるいは市町村のそういった圏域協力みたいなものを支援するというようなことですかね。

○ 蓑宮委員：いろいろなものをやるときは、道の段差の問題じゃないけれど、県の問題とか、それぞれ市町村の問題とか、やはり連携しないとダメなのです。個々だけでは、解決しない問題も多いのですよ。だから、そんなことは、磨き上げるというのは最初の方にありましたが、僕はこのプロジェクトが本当に磨き上げるためのいいきっかけになるなど。鎌倉にしても三浦にしても来てもらったら、魅力あるものはいっぱいあるわけですから。

それで、できれば中の上以上の家庭に。私なんかが行くと大体中国人と付き合うと中国

人の家庭にどこでも行かせてもらうのですが、やはり興味があるのですよね。日本の家庭ありますよ。神棚があって、靴を脱いで、きれいにして。だから、日本は靴下がものすごく魅力的なのです。靴を脱ぐ文化があるから。靴下というのは、料亭へ行ってもどこへ行っても見られていますからね。だから、そういうついでに民間も巻き込んだステイとか、泊まるのは規制が厳しいというけど、ランチとか、お茶するぐらいとか、そんなことも盛り込んで、やはり住民ぐるみでやる、いいアイデアがこれを機会にできると。僕は東京へ行くと住めと言うけど、東京よりよほど神奈川県の方がいいですよ。

○ 富山委員：でも、一方でそこで暮らしている人たちは、自分たちで自分たちの魅力に気付いていないというケースが多いじゃないですか。

○ 蓑宮委員：気付いていない。ほとんどなのですよ。

○ 富山委員：大抵外の人が見つけるといえるのか、今おっしゃったように、ラッシュアワーに乗ってうれしいのかというのもありつつも、そういうことも今、下町の飲食街に若者や外国の人たちがわざわざ行って、横浜にもそういう場所はいっぱいあると思うのですけど。

○ 牛山座長：そうですね。だから、私も神奈川県民ですけど、やはり神奈川はよく東京ばかり向いているとか、神奈川都民とか言われるけれども、そうでなくて、やはり神奈川の本物の魅力を発見するために、県として市町村を含めて頑張っていこうと。

○ 富山委員：じゃあ、芦ノ湖の風景がすごい魅力的だとしたら、そこにそれを邪魔する何かができることは、問題じゃないですか。そういう見方もあると。

○ 蓑宮委員：例えばどこでもそうですけど、スペインでもどこでも、このゾーンは、屋根はオレンジ色にするとかね。だから、まちぐるみでやらないと魅力が磨かれないのですよね。それは今すぐできないと思う。これから建替えをやる時とか、新築するときはそういう色にしましょうよと、そのうち50年後になると、わーすごいという。50年とか、そういうのかどうか知りませんが、時間がかかっても結論を明確にしておけば、僕はすごく良くなるのではないかという気がするのですけどね。

○ 富山委員：それは、それぞれの地域ごとだと思うので、横浜と湘南とでは違うということだと思うのですよね。

○ 蓑宮委員：そうですね。そういうことはあっていいですよ。

○ 牛山座長：分かりました。今のお話は、やはり地域の魅力の発見や圏域での促進ということで、そういった視点を入れていこうということだと思うのですが、そういったことにもつながるのですけども、さっきのアクセス、グレート東京みたいなイメージとか、そういう地域に皆さんが来るにしても、例えば小田急に乗ってきて藤沢で降りてとか、大

船で降りてモノレールとか、あるいは先ほどの、シーレーンをつなぐとか、採算の部分、そういうことを、例えば会社を越えて私鉄でもJRでも、あるいはバスとか、そういうことを話し合ったり、専門家で模索するとかいうことをする。それが今のお話につながってくるんですけど、そういう試みというか、会とか、研究するためのネットワークとか、そういうのはあるのですかね。

○ 黒田委員：公共交通のそういう取組みというの、ありますね。そういうところというのは、非常に回りやすいとか、移動しやすいということを視点にした会というのはありますし、モード間を越えてそういうことをやっていこうというの、だんだんそういう流れにはなってきているとは思いますがね。

○ 牛山座長：そういうことをもっと実体的、具体的に、企業ですから、それは競い合いもあるんですけど、そういう試みというのは可能なものですか。例えば、今みたいな海ではシーレーンをやるといったときに、やはりどうしても鉄道とのアクセスとか、あと採算、人の流れの検討があると思うのです。もちろん行政でもやると思うのですが、専門家として民間の力を活用していくみたいなことで言うと、重要だと思うのですが、そういうことがこういうところに位置付いたりするのですかね。できるのかどうかということは、どうなのでしょう。

○ 黒田委員：そういうのは、位置付けるべきなのでしょうね。多分そう思います。公共でこれから新しいものを投資するというのはなかなか難しいと思いますので、そうすると、民活みたいな話というのは当然出てこられるのだと思います。そうすると、やはり民間の投資意欲が湧くような政策、そういう仕組みづくりというのは、多分必要になるのではないのでしょうか。どうしたらそういうのができるのかというのは、やはり上の考え方があるのですけれども、民間で投資をするとコストは当然掛かるのですが、そのベネフィットが実際は地域全体に振り向かれるようなところであれば、実際そのコストをどうやって負担していくのかということも考えたりしていくべきなのでしょうね。

○ 牛山座長：神奈川県は通勤時間が日本で一番長い県だということがあって、そういう中で、それでもそこから通いたいとか、あるいは行きたいとかいう魅力発信ということにもそれはつながってくると思うので。

今もあるというお話ですけれども、もっともっと促進して、新しい事業とか、魅力との接合、そういうのを促進するような何か施策を。

○ 黒田委員：そういうのは必要なのではないですかね。そういった公共交通への投資はやはり何となく事業者任せっぽいところがあるので、そこをもう少し公共の方でも少し後押しするような施策というのは必要なのかもしれませんね。

それから、先ほど通勤時間が長いというお話が出たのですが、神奈川県で通勤されている方、例えば小田急線だと県央地区から都区内とすると、やはり1時間以上かかってしまう。しかも満員電車という話で、その解決をしようとする、例えば都内で複々線を

やるとか、そういうことをやっていくわけですが、それでそういう主なベネフィットを受ける人というのは実は神奈川県の方だったりするわけで、そういうところでどうやってそれを後押しする仕組みをつくるのかとか、その地域で例えば今ボトルネックになっているようなところというのは、その地域にとっての問題でもあるのですけれども、鉄道線路で見ると、遠くに住んでいる人の問題でもあったりして、そのボトルネックになっているようなところを解決する。道路も同じだと思うのですが、そここのところを解決するというのが、もう少し広域的に利益を生む場合、それをどう皆さんで考えていくのかという仕組みづくりが必要なのかもしれませんね。

○ 牛山座長：私も今どんなふうになっているか分からないので、よくは知らないのですが、いずれにしても、そういう何かをやって連携しながら、都心とも東京とも結ぶという。

○ 黒田委員：鉄道とか、交通というのは、もちろん地域のツールなのですけれども、その地域が発展しないと鉄道とか、公共交通もうまくいかないので、表裏一体なので、そういう意味では本当に連携していくべきだと思います。

○ 蓑宮委員：この間、エーザイの執行役員の45歳ぐらいの奥さんなのですが、夫がイギリス人で子どもは男が3人で本人は東京に勤めている。食事が終わって、「あなた、どっちへ行くの」、「軽井沢」と。軽井沢から通勤しているのですよ。要するに夫が主夫なのですよ。もうこれからは時間が、昔から比べればものすごく休みが多い。何かというと3連休。

○ 牛山座長：休みたいですから。

○ 蓑宮委員：だんだんそうなると思っているのよ。価値観がだいぶ変わってきて、東京は確かに給料をもらう所だけど、もう少し小田急も速くならえると、僕は品川までソニーに、昔は2時間で通っていたのですよ。今は速くなったけども。乗っている間に新聞とか、何かを読むから、苦痛でも何でもないのです。週末とか、子どものためにあれしていく。

○ 牛山座長：快適であれば多少長くてもね。

○ 蓑宮委員：お住まいは神奈川県。お金もらう所は東京であっても、全然これからは悪くないと思うのですよ。むしろ子どもたちのために、東京都内で道路ではずっと遊ぶ所もない。それがだんだん、それは例えば秦野辺りだったら、庭もあって野菜も何とか庭園みたいなのを借りて、もうその方がよほど子どもとか、妻にとってはいいし、夫だって休みが多いわけだから。だから、最近はむしろ逆ではないのかと。

○ 牛山座長：今のお話で本当うかがっていて。  
むしろ快適な移動。

長時間なのだから、快適な移動なら多少何百円か高くたって乗るとか。

○ 黒田委員：そうですね。いろいろな量の問題もあるのですが、質の問題というのも重要になってきていて、小田急で言えば、ロマンスカーみたいなものを使って通勤される方も非常に多いです。

今、実は小田急のロマンスカーは地下鉄にも入っているやつがあって、そういうやつも非常にニーズは高いですね。

ただ、それをつくろうとすると、小田急の場合はまだ複々線というのができていないので、それは工事している最中ですけど、そういうのができないと、幹線を太くしないとなかなかそういうのは簡単にはできない。

○ 牛山座長：あまり甲乙言っちゃいけないですけど、やはり採算という面では、京王みたいにそういうのをやらないで、ひたすら通勤という方が採算はいいのですか。

○ 黒田委員：それは微妙ですよ。

○ 牛山座長：微妙ですか。

○ 黒田委員：ええ。そういうのは考え方にもよるので。

○ 牛山座長：微妙だったら、どんどんやった方が神奈川県にとっては質の高い通勤、通学とか。

○ 黒田委員：それは質もありますよね。だから、今JRでは、例えば中央線にグリーン車を入れたいという考え方を出しているとか、やはり単なる量だけの問題ではなくて、これからはやはり質の問題、多様なニーズがありますので、そのニーズに合うような輸送という商品を提供していくことが必要なのだと思います。

○ 富山委員：正に湘南スタイルもずっとそこをやらせていただいているのですが、暮らしの場を自分で選ぶということですよ。利便性だけではなくて。

通勤時間はあっても、ここに住みたいから住むということで、皆さんチョイスされている方は多いと思うのですけれども。

○ 牛山座長：だから、逗子とか、そもそもグリーン車があって。でも、私なんかは家に帰るより、逗子とかにグリーン車で行く方がお金は掛からなくて。

○ 富山委員：それにやはり湘南新宿ラインみたいなものができたことで、さらに来やすくなっていったり、それはやはり一体のことだと思っているのですが。

ただ、一つにはやはり距離の問題だけではなくて、なんでここに住みたいの、というところをちゃんと見出していくというか。

○ 牛山座長：今のお話だと、地域の魅力というのは当然あって、プラス神奈川の特徴から言うと、通勤距離が長いと。でも、その通勤・通学の質を高めて、そうすれば、ある意味高額所得者とか、お金があればいいというものではないですけど、たくさん。

○ 蓑宮委員：財源が豊かになるし。

○ 牛山座長：そこは、非常に重要ですよ。

○ 蓑宮委員：だって、小田原なんかに行くと、最近、僕は新幹線だけど、本当に朝6時頃の電車で小学校の子が乗って、東京に行っているわけ。なぜですか、強烈なニーズがあるからでしょう。だから、夫は、多少遠くても快適な所があれば、必ず三浦半島とか、秦野とか、そこで生活をさせたいと思うでしょう。僕はそう思うのですよ。都内のスモッグだらけの所で、歓楽街で、ただネオンを見ている。だから、むしろそういう組合せで神奈川県の魅力というのを掘り下げるのだというふうに落とし込むと、小田急はもうかるし、そこで良くなるのではないかと。

○ 富山委員：そうですね。自分は湘南スタイルを18年やっているのですが、鎌倉、逗子、藤沢、茅ヶ崎辺り、すごく活気が出ていると思うのですが、同時にそれこそ小田原、秦野、三浦半島は自分が感じるにはすごく高嶺の花に見えて、人口減少と言われていて、自分はものすごく可能性がある場所だと思っています。

○ 山崎委員：三浦はどう感じていますか。

○ 富山委員：三浦も本当に素晴らしい所だし、やはり交通の部分が大きいと思うのですが、それさえ解決されれば、個人差はありますが、どっちがいいといたら、三浦の方がいい所だなと自分は思いますね。

○ 蓑宮委員：どちらかといったら、三浦は遠く感じるのね。

○ 山崎委員：そうなのですよ。

○ 富山委員：でも、実は三浦半島に立って東京を見ると、すぐそこじゃないですか。そういう部分も。

○ 蓑宮委員：僕の娘がそう言って、国際村にすると。逗子のあの辺は通って行っていないが。

○ 黒田委員：あと、交通の問題で、鉄道幹線なのですけども、フィーダー（支線）のバスとか、駅までのアクセスというのは結構重要で、だんだんお年を召してくると、段差が

あったり、そこに坂があるとか、そういうまちというのはなかなか住みにくくなっちゃうみたいで、そういう所に長らく住んでいただくためには、やはりバスとか、フィーダーの路線が重要なのですよね。

ところが、一般的に言うと、私鉄、小田急もそうですけど、多分京急さんもそうなのですけれども、私鉄の駅の駅前あまり広場とか、そういうのがなくて、なかなかフィーダーが発達しにくい、入ってきにくい状況というのはあるのですよね。

○ 牛山座長：ある程度当初からのつくり方みたいなことですかね。

○ 黒田委員：やはり東京がつくっているわけで、国鉄がつくっているわけではないですし、やはり土地の問題とか、そういうのが非常に狭い所に行っていたという実態があるのではないのでしょうか。

○ 牛山座長：先ほど湘南の話が出ましたけれども、今回は今度オリンピックももうすぐあるしとか、実際海外のお客さんがいらして、湘南海岸ですよね。実は私、今日も県の職員と神奈川の海岸の時は随分いろいろ勉強したのですが、海岸のにぎわいと住民の皆さんの迷惑、防災視点で、もう逗子とか、葉山、鎌倉とかは条例が作られていますと。海岸のイメージとか、あるいは別にそれは箱根の方でもいいのですが、そういう道路をどう作っていくといいですかね。

○ 富山委員：自分が感じるのは、海の家が建つ7月から8月の終わりまで、8月の終わりになれば海の家は壊されて、その期間だけが夏で、海で、お祭りで何をやってもいいみたいな、何となくそういう感じがあると思うのですが、湘南に関して言えば、海の季節は別に海の家が建っている間だけじゃないよというか、湘南の夏をもっと長くしてあげることができると、それによってお祭りじゃなくて、日常というか、いつもそこに海の時間があるというふうになっていくのではないかなと自分は感じるのですよね。壊されてしまうもの、瞬間的なお祭りで、だから、ここでは何をやってもいいみたいな、若者の部分で言うと、すごくそれを感じて、逆に海際に年中建っている飲食店なりは、すごく落ち着いて、いい雰囲気だったりするのですよ。あの部分だけなので。

○ 牛山座長：私も学生時代以来、何十年ぶりぐらいに夏の海岸に行ったのですが、すごいですね。

○ 山崎委員：様変わりしていますよね。海の家自体が。

○ 富山委員：でも、海の家のない隣の海に行くと、すごく落ち着いていたりするわけじゃないですか。

○ 石井委員：今年は、鎌倉の規制をしているからですかね。

僕は鎌倉に住んでいるのですが、少し変わりましたね。観光客であったり、人の層が

少し変わった。逗子で規制してから去年はひどかったと言っていましたね。

○ 牛山座長：こっちへ来ちゃってということですね。

○ 石井委員：鎌倉的に考えると、夏の海はいいのですが、海に行ったら帰っちゃうので、こっち側の従来の商店街とか、あっち側のほうはあまり潤わないというか、その割には要するに治安が良くないという感じなので、やはり住民は結構。

○ 富山委員：そういう意味ではビーチカルチャーが熟成していないというか、海外はそうではないじゃないですか。

○ 牛山座長：今の夏といえばビーチカルチャーというのは、どんなことをやるのですか。教えていただかなくてはいけないのですが、いろいろな意味でビーチカルチャーを育むということですか。

○ 富山委員：例えば、ロサンゼルスのみちとマリブの海岸線とか、パリとビアリッツ辺りの大西洋側の海とか、イタリアにしろ、都市と海際のカルチャーというのは表裏一体でセットというか、大体ハイブランドだとかに行ってもドレスアップの服と一緒にカジュアル服、リゾート服というのがセットになっているじゃないですか。その一つがビーチだったり、軽井沢みたいな山だったりすると思うのですが、都市と自然みたいなもの、単に田舎という意味だけじゃなくて、もう一つの違う価値観がある場所として確立されていると思うのですよね。今、湘南に移り住んでいるような人たちの多くは、それを求めているんじゃないかと思うのですよ。東京という世界の大都市と、わずか1時間の所に少し落ち着いた自然の海岸が残っている。東京のように埋め立てされた海ではなく、そこで少し都心とは違う、ゆっくりした時間が流れている。

○ 牛山座長：そうですね。東京にはないですね。

○ 富山委員：東京には全くないものが、わずか1時間の通勤できる距離であるというのが、すごく価値がある。

○ 牛山座長：変な話、横浜、川崎、都心と、三浦、横須賀、湘南で表裏一体みたいな形のイメージをつくれればいいと。

○ 富山委員：そうです。東京を横浜に置き換えると、そうですね。横浜はもちろん海もありますけど、自然のままの海じゃないじゃないですか。それとは違う、すごく観念的な話になりますけど、それはすごく違うスタイルというか、違う価値観に乗っかっているものなので、例えば逗子マリーナさんにロンハーマンが入ってくるみたいな、今少し具体的な話になっちゃう。今のファッションも、カジュアルなファッション、海際のビーチサイドのファッションというのは、すごく注目されているのですよね。それは、都会のドレス

アップしたのとは違うものとして。そこの魅力がすごくいっぱいあると思うので、通勤距離が長いというのも恐らく東京に通っている方が多いということだと思うのですが、それが山側でも海側でもあれば、極端なことを言えば、本当に魅力的であれば、箱根と丹沢と湘南があれば別に全部求めるものは解決するのではないかなと思いますし、それを日常で皆さんが上手に使えば、すごく暮らしが豊かになるだろうと思うのですけどね。

○ 牛山座長：山崎委員の最初のお話から、今のところ、魅力を高めながら、アクセスの問題や回遊性みたいな問題とか、ネットワーク、あるいはその地域の魅力を本当に高めるといったお話をいただいています。例えばその中で、知事も、神奈川というのは要するに都市的な所と、自然の豊かな、日本の縮図だ、みたいな形で言っていましたけど、それは本当にそういうことを含めながら、なおかつ、グレーター東京みたいな論点というイメージも踏まえて、今のお話につながると思うのです。ですから、そういう所の魅力を高めて、考えていくと見えてくるというか。

○ 富山委員：それはもちろんそのとおりののですが、最初に申し上げたように、それをどうやるかというところが非常に問題で、間違えた方法でやると、その魅力すら失うという部分をちゃんと監視していかないと、今ある、みんながいいと思っている景色なり、雰囲気なりが失われるということ。方法論、その各論がすごく大事な、繊細な話だと思うのですよね。

○ 蓑宮委員：今おっしゃったところで言うと、僕も43か国世界を回っていて、つくづくこの小田原とか、日本がいいと思っているのですが、一番駄目なのは自分のお国自慢ができないのですよ。イギリスなんて行くと、「今日はミノ、何回目だ。」「3回目だ。」「じゃあ、いいな」と、「2時間、飯の後、時間くれ」とか、ネルソン提督のことから始まって、もう延々とお国自慢ができるのですよね。このお国自慢ができない国民というのは、日本人だけじゃないの。だから、教育という意味では、神奈川県の方が良きなのか、本当にもともと神奈川にいる人は全然分かっていないのですよ。外へ行ってみると、うちに帰ってくるとほっとするなど。そう思いませんか。だから、そこのリンクも非常に大事だなと。

○ 富山委員：じゃあ、そのお国自慢ができることは何なのか、利便性やコンクリートでできたものではないと思うのですよ。巨大な何かとか。そうじゃなくて、やはりちょっとしたことでとか、自然とかということだと思うので、その辺がともすると逆に行きがちじゃないですか。何かを活性化させようとする。

○ 蓑宮委員：だから、もう少しバック・トゥ・ザ・ベーシックにして。

○ 富山委員：そう。正におっしゃるとおりです。

○ 蓑宮委員：僕らが小さい頃にほとんど体験した、クワガタ捕りとか、海水浴をして、昔はただで素潜りでサザエ捕ったりなんか、そういう環境というのは、全部失われている

わけですよ。

だけど、今の大人は、確かに貧しかったけど、せめて自分が体験したくらいの環境を守って後世の人にそれを残したいと、皆さん、話をすると思っているわけ。ほとんどそういうことを失って、利便性は確かに得たけど、という気持ちが強いと思うのですよ。それは、日本人だけじゃなくて、ほかの国もみんなそうだと思うのですよ。そこは大事にしなきゃいけない。

○ 富山委員：それをいかに残しながらブラッシュアップしていくかということの。

○ 蓑宮委員：ブラッシュアップするかというところは、大事だと思いますね。

○ 牛山座長：今のお話だと、やはり魅力の中身ですよ。

○ 富山委員：はい。

○ 牛山座長：要するに魅力の中身を精査していかなきゃいけないということと、神奈川県らしさを失ったり、環境が破壊されるようなことになっては本末転倒だということを、おっしゃっているのですよね。

○ 富山委員：はい。

○ 蓑宮委員：だって、東京の人なんか、昔はみんな田舎者でしょう。本当は、そういう週末というのを東京の人こそ懂れているのですよ。

○ 富山委員：そうだと思います。

○ 蓑宮委員：間違えちゃ困るのですよね。銀座のバーのホステスは、みんな田舎者ですからね。そうですよ。だから、おでん屋とかに行くのが好きだとか。

○ 牛山座長：それでは、ほかにも幾つかございますので、是非ご議論いただきたいのですが、例えばこの（２）で地域資源を生かした魅力づくりで、本当に蓑宮委員はご発言あると思うのですが、自然、食、癒やし。それから先ほどのこの地域の環境を守るところにもつながっているのですが、未病の取組みもありますし、こういった地域資源を活用した魅力づくりというところで、何か皆さんから、こういった方向性がいいのではないかと、こういう事業もいいのではないかと意見をいただければありがたいのですが、いかがでしょうか。県西地域の活性化というのが出て来ていますけど。

○ 蓑宮委員：人間というのは定命というのがあって、誰もいつ蓑宮武夫が死ぬかというのは分からないわけですね。必ず死に向かって皆さんは動いている。だから、いつ死ぬか分からないから、人生観というのはそれぞれ違うと思うのだけど、生まれたからには年を

取って、僕が言ったように寝たきり老人より出たきり老人、しょっちゅういろいろな所へ出て、そのままポックリ死にたいよね、というのは、僕は大事な定義だと思うのですよ。そうすると、出たきり老人になるためには、やはり一つは今の年寄り75歳になると後期高齢者、俺の人生は終わりかよとか、いろいろなことがあって、やはり出たきり老人はいろいろな所に出たい。寝ている人も元気出して、そういう人はいっぱい世の中にいるわけですから、それをきちんと出たきり老人になりたいと、体が弱っていた人も元気になったよと、生きるには頼りにされるとか、役に立つとか、そういうものがないと、健康寿命と寿命のギャップの10年はなかなか埋まらないと思うのですよ。そこにただ医療だけのアプローチももちろんいいけど、少しシニアの役割とか、おじいちゃん頑張ってくれてうれしいねと、孫がリスペクトするようなカルチャーとか、いろいろな問題があるので、やはりそのところを老若男女一体となってやるような仕組みがないと、5年に縮めるとすごく医療費が助かるし、生活している本人も助かるしと。どっちみち二つしかないのですから、もう目標がない人は乞食になるか、目標がなければ、誰だってそうでしょう。だって、乞食の人が長生きした事例なんかありませんから。やはり生きがいがあって、だから、病に倒れても頑張るって治すと。長嶋茂雄だってあれだけだったのに、もう一度全日本の監督をやりたいという強烈な目標があったので、あの苦しいリハビリに耐えて。その辺のところをソフトウェアの面とハードウェアの面とをうまく組み合わせると、僕はこの未病というのは、最初二見政策局長さんだっけ、「こんなことをやりたい」と、小田原の人を10人ぐらい集めて言ったら、「未病。何だ、そりゃ、名前変えろ。」というのがほとんどで、今や堂々たるもので、国家で未病というのは造語として定着しちゃったわけですよ。だから、そのところを是非皆さんで定義して、ソフトウェアの側面とハードウェアの側面で切り口を明確にしていくというのは、いかがなものかなと思っているのですよね。10歳のギャップというのは、大変ですよ。昨今の医療費ももうばんばん、何かそういう手当が、模範になるようなところを。

長野県の佐久だって、昔は脳溢血などの死亡率が一番だったのが、全体で塩分控え目何とか運動でもうぐーっと上になった。やはり長い戦いかもしれないけど、そういうことの道筋を付けるというのは、このプロジェクトの意味があることではないかとすごく思うのだけど、それは老人が働くことも含め、それから孫たちに指導することも含め、トータルでうまく回るのではないかなという気がしているのですけどね。どうですか。

○ 富山委員：自分は湘南スタイルを作っていて思うのは、地域の人たちが、皆さんそこが好きで、わざわざそこに住んでいる人たちが集まっているというのがすごいことだなと感じるのですよね。例えば散歩していても。基本、自分たちはここを好きで住んでいるですよという共通のものがあるので、やはり会話する人も多いし、すごくお年寄りが元気だなと、自分は感じるのですよ。

先ほどの話にも戻るのですが、その地域の魅力をみんなが感じて、隣の人も、何軒隣の人も、基本いろいろあるけど、ここが好きで暮らしているのだよねという地域は、すごく元気だと自分は感じていて、お年寄りのコミュニティーみたいなものが意外と多いのですよね。犬の散歩友達とか、あとは近所で、湘南はバーベキューとかやる人が多いので、割とカジュアルに人が集まったり。自分が感じるのは、その基本には、みんなそこが好

きということがあるのではないかな、便利だから住んでいるだけじゃありませんというところをすごく感じますね。

○ 牛山座長：県西地域の活性化というか、人を呼ぶということもあるのですが、やはり、未病の取組みというのは、かなり県西地域で際立っているという印象はあるのですかね。私は神奈川県に住んではいるのですが、なかなか全県的には行かないのですけれど。

○ 蓑宮委員：それは、僕が知っている限り頑張っている。潤生園だとか、日本のオピニオンのいろいろなことをやっている人もいますし。

だけど、僕は理事をやっているのですが、特別老人養護ホームを私の仲間が経営しているのですが、そこに必ず東京から来た人を連れていくのですよ。いかに金が掛かると。それでその理事長は言ったのです。これは一応要介護3になっていますけど、これに入ったら2だろうと1だろうと関係なく、すぐ悪くなりますからと。もうああいう所に行くと、コミュニケーションのないクローズの世界に入っちゃったならば、もうあつという間に悪くなるから心配しかしないのね。これを聞いてびっくりして、その割に寝た状態だろうと、座った状態でお風呂は入れるような仕組みを持つ。だから、こんなにお金が掛かるのですと、こんな状態で確かにあるけど、と言うために、東京から来たら必ず僕は自分の環境をやっているメガソーラーとか、そういうことも含めて、そこに必ず寄らせるのですよ。やはり問題意識を持ってもらわないといかんなど。

だから、少し前に出ていたように、僕は今、ほうとくエネルギー株式会社の社長をやっているから、ソーラーパネルとか、それから水力発電とか、又はバイオマスだとか、そういうことが、あるゾーンで、1か所で見られるのですよ。その辺がまた、1周すると10キロとか、20キロで、いい所なのですよ。その所に例えば電気自動車のバスみたいなものを走らせて、その周りに史跡、観光地がいっぱいあるのですよ。バスはこう動かして、もちろん史跡に寄りたい人はそこでドロップして、そこからウォーキングする人はウォーキング。そういうゾーンというのは、僕は何も小田原だけではなくて、秦野でも三浦でも。何かそういうゾーンのものをお年寄りに。その代わり、車いすで途中から行きたいなんてバスの後ろに積んであっても、今は行けないでしょうね。弱者に優しいとかいいながらも、完全に車いすでそうやって行けるゾーンが一つもないのですよ。これを全部やるのは大変ですけど、三浦地域に1か所とか、このゾーンを1周すると10キロで、いい所はありますよ。そういうことをトライアルでやってみると、またそういうまちというのは海外の人がものすごく興味を持ったりするのですよ。だって、これもまちぐるみですよ。段差とか、道路の幅を広げなきゃ、それと県の人、地主の協力も得られる。これからは、やはりまちぐるみ、住民ぐるみ、県ぐるみ、市町村ぐるみで何か手を打たないと、これは言い出すだけで終わっちゃうという気がするのですよ。

○ 牛山座長：私がそういうことを言ったのは、一つはここに県西地域の活性化の部分、それから今度こっちは三浦半島という形で、かなりこの県の戦略として、この二つの地域を抜き出して見ているわけですね。さっきの、もちろん全県的な観光資源を生かしたということももちろんありますが、やはりこの部分に出てくると、逆にそれ以外のアクセ

スの問題とか、いろいろなことも含めて、やはり事業になってくるのですが、それについてはこの分科会の中では、概ねこういう形でいいのではないかということで、皆さんの印象としてどうかということになってくると、やはり人口減少とか、市町村も含めて非常に厳しい現状があるので、これでいこうということになっていると思うのですが、その辺で、今の委員のご意見は、西部地域についてはそういった方向性でいくのがいいのではないかということですよ。

○ 蓑宮委員：そうですね。観光に結び付けられる。自然とか、環境が観光に結び付けられる。また、未病対策にもなろうと、いろいろな形で僕はあり得ると思いますね。

○ 石井委員：未病という点については、特に県西地区ということに限らず、三浦半島についても未病というテーマで取り組める要素はものすごくあると思いますので、あえて県西地区の活性化プロジェクトでなく、未病そのものが。

○ 牛山座長：そうですね。未病そのものが全県的な問題となっていますので。

○ 蓑宮委員：一応特区になっていますので、県西地区にご協力お願いします。

○ 二見政策局長：今いろいろご議論いただいたところで、座長から県西地域活性化と三浦半島のお話がありました。今回、地方創生の中での新しい人の流れをつくるというテーマで、単に地域振興をやきましょう、地域が潤えばいいですよ、観光振興をやしましょう、インバウンドをやってもらえばいいですよと、そこまでの政策ではなくて、それを、定住人口を増やしましょうというところに結び付けようというのが今回のテーマです。入口として観光をやれば人がたくさん流れてくる。それが地域を見てくれて、住みたいという気持ちを起こしてくれるのではないかと、そして、地域振興をやれば、そこに産業ができて、それも魅力になって、定住人口に結び付いていくのではないかと、こういうストーリーを地方創生という切り口の中では持っているものですから、そういう観点で最後の県西地域の活性化プロジェクトにしても、三浦半島にしても見ていただきたいですし、まず最終的にそういう観点で今やろうとしているものがあるか。

未病というものが出てきまして、これはすごく全体を通じるポイントだと神奈川県では考えているのです。これは、我々が予期したものよりもうんと広がってきていて、始めはなぜ県西地域で未病をやろうとしたかということ、皆さんの未病はまだ分からない状態の中で、県西地域には温泉があるというのが非常に、それから森林セラピーがあって、当然小田原漁港があって海の幸、そして、あそこの辺りは少品目多種の農業があるということで、食もいいですし、癒やしだとか、そういうものが全部そろって、あそこにパッケージになっているということがあって、じゃあ、そこで目に見える未病をやろうじゃないかという、そのモデル地域なのですね。それで売り出していこうというコンセプトでまとめたものですから、今から思うと、定住人口まで狙ったものではないのだけでも、そういうライフスタイルを出していくのが小田原地域の定住人口を増やすものにつながっていくのではないかと、これは思ったよりも広がってきています。

それで、山崎委員から三浦半島が出ました。三浦半島は、我々は最初、海と観光でまずは売り出して行って注目をさせて、そこにライフスタイルの発信などが加わっていけば定住人口が増えるのではないかというものを持っているのですが、地域の市町村長さん方にお話ししたところ、海と観光はあるのだけど、未病をやりたいという声が上がってきたのです。それは、やはり高齢社会に対応した仕組みというものがその地域にできているのだというものをもっとアピールしたい、だから、CCRCなども海側でやりたい。それは、単なるCCRCと言わずに、未病と結び付けてやっていきたいと、こういう流れに今なってきている、こんな形ですね。

○ 蓑宮委員：だから、本当に小田急さんと協力してもらって行ったよね。もう住みたくないのですよ。就職先は東京都だけど、週末とかの休みが多い時間はこれからゆう活なんかの時代になってきて、本人が多少1時間とか、1時間半の時間がかかっても、戻った所では子どもたち、お父さん、お母さん、妻なんかには魅力がある。自分も週末で。そういうまちに住みたいわけなのです。それがもうこんなに至近距離にあると。私に言わせると、むしろ至近距離なのです。これは全くそのとおりで、だから、それをやることによって、人口も僕は増えると思う。住みたい人はいっぱいいますよ。5,000万も6,000万も、都内ですとずっと住んでいてどうするのだと。土曜日、日曜日はどうするのだよと。子どもはやることがないのです。それで、小田原に住む、秦野に住む、三浦に住む、やることがいっぱいあるじゃないですか。違いますか。

僕はそう思いますけどね。

別な件で。今朝なんか見ていると、まちの地方税をふるさと納税、山形の天童市というのはものすごくあつという間の位置感になっちゃったと。いろいろな紹介をしていたのですが、結構みんな、「なんで天童が一番なの」と。サクランボはある、桃はある、肉は天童牛とか、将棋の駒は今日来た人は全部手彫りで蓑宮と彫ってくれるとか、ああいうものをばかにしていたけど、やはり都市のブランド化をみんなが分からないわけだから、ああいうものも躊躇しないで、やはり積極的に魅力ある一つのバロメーターだと思うのです。神奈川県はどうなのですか。出ているお金が多いのですか。「俺がやろうか」と言ったら、「何言っているのだ。蓑宮さんが小田原から別の所に納税したら、どうするのだ。」と言って怒られちゃったのだけだね。

○ 二見政策局長：ふるさと納税は、神奈川県は非常に少ないのです。

○ 蓑宮委員：少ないのでしょうか。これは逆になっちゃうのですからね。

○ 二見政策局長：呼ぶためのお金も使っていないですから、そういう判定ができるような状態には県のレベルではなっていないということですね。ほかの県に比べて入ってくる額は少ないのですが、それを入れるためにお金を使っていないですから。

○ 蓑宮委員：知らないのだから、妻が「平戸市ってどこだ。」と、平戸市なんていうのは、僕は2、3回行っているから「こういうまちだよ」と。あれは結構知ってもらうためには

一つのいい。

○ 山崎委員：ふるさと納税について、実は私どもの事業所がある、逗子市と三浦市の制度にも違いがあります。例えば逗子マリーナですと、逗子市のリゾートマンションですけれども、逗子マリーナには約 1,300 戸の分譲マンションがあつて、そのうちの約 10%が住民票を取って住まわれています。それ以外の方は、逗子市以外の方、東京、神奈川以外の方がいらっしゃるわけですが、そういう方々がその地域のために自分の納税を使ってほしいという希望があるのですが、逗子市には受け皿がありません。三浦市と鎌倉市には幾つかパターンがあつて、三浦市と鎌倉市はどういう事業に使うと、例えば環境保全のために使うと、選択ができるのですが、たまたま逗子市の場合はそれがなくて、特に逗子市の場合は、小学校の地域自治というのが非常に今盛んに行われるようになっているのですが、そのエリアに自分がお世話になっている自分のふるさと納税をうまく使ってほしいというのが、なかなか受け皿がないという問題が上がっておりまして、産物をいただくのではなくて、本当にそこにお世話になっているからそれを使ってもらい受け皿がないということが実は問題になっています。

○ 蓑宮委員：僕は妻の反応を見てびっくりしたのですが、「天童市がなんで」と、そういう見方をするわけ。そうすると、天童のことがよく分かってくるわけ。「あら、そうなの」と、フルーツ王国でただサクランボだけだと思ったら、桃はあつて、何だかんだと、結構マスコミのスポットライトを浴びるから。

○ 牛山座長：ふるさと納税もいろいろ課題があつて。

○ 蓑宮委員：もちろん仕組みそのものは、非常に一長一短ありますけれども。

○ 牛山座長：要するにふるさと納税は市町村のあれですけども、魅力発信の工夫ですよ。

○ 蓑宮委員：工夫をどうしたらいいか。

○ 牛山座長：今の人を呼び込むかということにどうつなげるかという、一つのお話ですよ。

○ 蓑宮委員：はい。

○ 牛山座長：あと、ここで例えば神奈川県が進めている、いわゆるマグカルですよ。これは、先ほどから出ている地域の魅力にもつながる、文化ですよ。こういったことについては、何かご意見ございますか。なかなかマグカルといっても、どういうものかというのがありますけれども。

○ 蓑宮委員：今までの話を聞くと、私は神奈川県の特に三浦もそうだし、箱根とかは、やはり製造はもう呼び込めない、呼び込む価値がない。研究所ですよ。海外の研究所、やはり山林とか、いろいろな中には研究所を呼び込むというのは、海外のメーカーも、研究家の人は特に集中型ですから、頭も疲れる。だけど、そのとき、うちに帰ったら、温泉があるとか、周りにホテルが乱舞するような所とか。もちろんこの横浜とか、川崎はまた別な意味があると。秦野とか、三浦とか。新しいタイプの研究所、それはやはり研究しながらの生活も楽しめる。これをきちんと今までのことをやりながら、僕は目指すべきだと思いますよ。研究所にいる間は、研究所の人たちは疲れるのですよ。

○ 黒田委員：研究所の方は、やはり所得も高いですし、非常にカルチャーでも理解がある方も多と思われるので、そういう方が多く住まわれたり、そういう事業所があるというのは非常にいいと思いますね。それから、そういう研究所には海外からもやはり研究者の方、そういう関係の方がよくいらっしゃるので、実際小田急の沿線で見ると、厚木の郊外にそういう研究所がやはり日産さんとかが来て、結構そういう所にロマンスカーで外国の方が来られているというのは目にします。そういうのは地域にとってはすごくいいのではないですかね。

○ 牛山座長：地域の産業特性みたいなものを踏まえたというか、理解した上で、それに見合ったライフスタイルみたいなものを発信する、このプロジェクトをやっていますと。それは文化的な関心も高いし、それとマグカル、未病をつなげていくということですね。

○ 牛山座長：石井さん、いかがですか。生活スタイル、一つのキーワードで。

○ 石井委員：生活スタイルもいろいろ多様化しているので、いろいろな方のいろいろな需要がある。

でも、神奈川県は最初から皆さんがおっしゃっているように、いろいろ多面的にバランスのとれている地域ですし、やはり独自性を持ってやっていかないと、多分観光にしても居住にしても、私はあえて別に神奈川でなくても大丈夫なのではないかな、もしくは千葉の方がもっと利便性がいいのかもしれないという話になってしまうかもしれないので、何か新しいことをやろうというのだったら、例えば地元資源、この地域の魅力のあれをしようというのは、ここじゃなきゃ、三浦じゃなきゃ、鎌倉じゃなきゃ、というもの何かしらやらなきゃいけないのではないかなと。

○ 牛山座長：そうですね。千葉も非常に魅力のある県かもしれませんが、アクセスは圧倒的に実はこっちの方がいいですよ。

○ 黒田委員：これは微妙で。

○ 牛山座長：イメージでは、鉄道もありますし、不便じゃないけど、そういうロマンスカーにしてもそうだし、小田急もそうだし、JRのグリーン車がある。

○ 黒田委員：そういう意味では多面性は圧倒的に神奈川県の方があります。ただ、千葉県もアクアラインとかがあるので、意外と時間と距離は短かったりするのです。

先ほどお話のあった、海の文化というか、海岸のにぎわいというもの、千葉の海岸のにぎわいと湘南の海岸のにぎわいは多分違うのだと思いますし、さっきの文化みたいなどころは湘南の方がかなり熟成されていると思います。そういう意味で発信した方が、確かにいいと思います。

○ 蓑宮委員：圧倒的な差は、やはり日本の中で歴史とか文化は圧倒的に神奈川。はっきり言いますが、東京は小田原藩の領地だったのですからね。小田原が、この辺の神奈川周辺は全部制覇していたのですよ。だから、小田原の名前がみんな付いているのですよ。新宿というのは、小田原に新宿があるの。板橋というのものもあるの。江戸は、いわばみんな小田原の人がつくったまちなのですよ。だから、神奈川県は、鎌倉幕府も含めてそれだけすごいのですよ。堂々と外国の人が来てやはり価値があるというのは、そういう歴史をきちんと正しく把握して。そういうものをきちんと変な形にしないでやるというのは、僕はものすごくインバウンドにも効果があると思うのですよ。

○ 牛山座長：ですから、文化、文化といっぱい出てきますけど、ここにやはり神奈川らしい歴史とか、今のようないろいろな地域の伝承とか、そういったものをきちんと位置付けて教育する必要があると。

○ 富山委員：1回目の会議のときの冒頭で知事が、神奈川県は地方創生といって、どっちかという出すべき立場じゃないかみたいな言われ方もある、とおっしゃっていましたよね。

○ 牛山座長 出すというのは。

○ 富山委員：呼び込むよりも、地方に。

○ 牛山座長：国が言っているように、もっとよそへ出ていけと。

○ 富山委員：そうです。ただ、逆に言えば、東京に対して一番近くて、一番パワーはある。それでいて、自然環境はすごいバラエティーに富んでいて、海も山もあって、少し観念的な話になっちゃいますけど、だからこそ、神奈川県でしかできないやり方みたいな、きめ細やかな、やはりほかの地方とは違う、いい形、新しい形をできたらいいなど。そのためにはまず、先ほどから話に出ている、神奈川県の広い中でそれぞれの地域の魅力は何なのだとことをもう一度ある程度のエリアに分けるなどしながら、見直すことから始めた方がいいのではないかなと自分は思うのですね。

○ 牛山座長：今お話を伺いながら思ったのですが、新しい人の流れをつくるというの

はこのテーマなのですが、それを言われれば、さっきの県西地域や三浦半島も含めて、ほかの地域にも関連してですけど、川崎みたいなことはあまりここには出てこないですよ。やはり県民の半分以上が住んでいる所だから、政令指定都市だからということかもしれませんけど、全くではないけれど、あまり出てこないみたいなのはいいのですかね。考え方を、何か触れておく必要はないのですかね。

○ 和泉政策局副局長：神奈川県の中が、今、日本の縮図とよく我々は国に対して言うのですが、やはり横浜、川崎に県内の人が集まってしまって、先ほどの三浦もそうなのですが、三浦半島というのはやはり川崎までは人が来ているのに、横須賀もそうなのですが、そこから先には行かない。横浜がやはり一番人口も多いし、力もあるということで、全く無視して神奈川県を地方創生を考えられるかというところを決してそうではないのですが、ただ、横浜、川崎よりもやはり県西地区ですとか、県央のロボットですとか、三浦の部分の魅力ある地域につくっていくというのがまず一番だと我々は考えておるところです。

○ 山崎委員：昨年1年間、かながわシープロジェクトで少し活動したのですが、知事もプロジェクトでも最初にお話ししているように、湘南はどこからどこまでかという議論もありました。結論としては、相模湾の真鶴から三浦半島までを湘南と呼ぶと。それも、これまでの漢字の湘南ではいろいろな議論があって、湘南を英語の表記にしようというようなことを議論したのです。そのときに私が話したことは、神奈川の海の魅力ということ考えたときに、もちろん相模湾はマリンスポーツが第一ですし、もちろん魚もそうですし、陸から見る相模湾の景色と、先ほどおっしゃった海から見る陸の景色というものもものすごく相模湾は魅力があるのです。

でも、観音崎を交わして東京湾に入っていくときの運船の航路を使う船の交通量を見るだけでも、それは素晴らしい景色だと思うし、対岸の千葉の景色も見えるし、それからもつとつと、ベイブリッジから中に入って、川崎に京浜運河があって、その京浜運河を夜走ると工場地帯の夜景がすごくきれいで、夜景クルーズなどもやっている会社さんがありますけど、そういう魅力も実はあるなということで、神奈川の海の魅力という点では相模湾だけじゃないですよという意見を出しました。

議論が湘南というのほどかという話になったのですが、海だけ考えても、そんなにうまく神奈川というのは川崎、しかも実は羽田空港の所に接岸できる岸壁ができていくとなかなか違うと思って、神奈川はその権利も取れていて、そこから船を出して横浜に人を運ぶことができるのですよね。それがなかなか、先ほど黒田委員がおっしゃったように、事業化できていないとか、採算性の問題とかがあると思いますけども、実はもちろん便利な鉄道で横浜に来るのもいいでしょうけども、京浜運河を使いながら横浜に入ってくるというときもやってみると、それはそれでいいと思うのですが。

○ 黒田委員：川崎、横浜というのを無視しては、なかなか全体像が測れないのではないのでしょうか。

○ 牛山座長：そこは工夫の必要などあるところだと思うのですが、何かあるかどうかま

た。そこに何か事業を当てはめるということではなくて、少しイメージできるような何かというのは。

○ 黒田委員：インバウンドということを考えても、やはりインバウンドだと羽田空港とか、新幹線とか、そういうアクセスを考えると、やはり新横浜は横浜にありますし、羽田空港は都内にあるわけで、その隣接というのは川崎になっているわけですから、そういうところをなかなか考えないで語るというのは難しいのではないかと思います。そことうまく連携というか、その地域、その人たちにもメリットがあって、県西地区にもメリットがあるようなそういう話が。

○ 牛山座長：横浜、川崎にプロジェクトを持ってくるという意味じゃなくて、やはりさっきの連携とか、ネットワークとかで横浜、川崎の強みも生かした県西や三浦半島との連携、何かそういうことが考えられるかどうか、それも一つのポイントですかね。

○ 山崎委員：先ほどのインバウンドの話の中で、どういう客層かというのものもあるのではないのでしょうか。インバウンドなどでもかなりお金を落とさせていただけるような方々もいらっしゃるし、そういう方々に提案という点で我々も至らないところで議論するのですが、羽田空港や成田空港から神奈川、箱根、富士の方にヘリコプターのチャーター便も結構今検討されています。

ところが、神奈川の中ではなかなか空港と結べるヘリポートがないのが現状です。三浦半島もないのですよ。箱根はありますよね。富士はありますよね。そういう所、本当にスペシャルな側からすると、そういう需要もあります。

○ 和泉政策局副局長：先ほどの横浜、川崎のお話で、総合政策課長です。

○ 中谷総合政策課長：今、神奈川県の中で実際に人口減少している地域は、やはり首都圏から少し距離がある、県西地域だとか、足柄上、あと三浦半島地域という所が中心なので、神奈川県全体の中で見たときにどこに重点を置くかという、そちらの方にシフトして考えているというのが現状なのです。

ただ、オール神奈川で広域自治体として考えていったときに、横浜、川崎を全く考えないのかという、それは当然なくて、当然横浜、川崎にも通ずるような全県的な施策というのは展開していかなくちゃいけないとは考えています。

特に政令指定都市と連携して、政令指定都市も当然まち・ひと・しごと創生の地方創生という施策を展開していきますから、そことうまく連携して、そこを入れて検討していきたいと考えています。そこを外すというようなことは、考えていません。

○ 牛山座長：そういうことはもちろんあって、今のお話でもネットワークとか、連携というのが結構キーワードにはなっていて、それにさらに地域の魅力ということで県西とか、三浦というのが出てきていて、そのネットワークで、例えば今の羽田からとか、いろいろなアクセスの問題や、大都市の利点を生かしつつ、それがさらにこういった地域のネット

ワークにつながるみたいな、要するに川崎、横浜に何かプロジェクトをとということではなくて、やはり広域性を持ったネットワークみたいなのがキーワードになってきて。

○ 中谷総合政策課長：正にそれが神奈川県役割ということもあると思います。広域自治体であるからこそ、一つの地域に収まらないで広域的に連携してそれを支援するという立場にあると思いますので、そこの視点は欠かさず。

○ 牛山座長：ここだけ見ると、横浜、川崎は関係ないみたいな話ではないのではないかと、その辺のニュアンスがうまく表現できればいいかなというのが今の意見なのですけど。

○ 中谷総合政策課長：入れさせてもらいます。

○ 牛山座長：時間もあと5分ぐらいですが、いかがでしょう。大体今の皆さんのお話だと、最初はシーレーンのお話が出て、東京オリンピックのお話とか、そこでも二つありましたけど、正にインバウンド、それからグレーター東京みたいなイメージとか、ネットワークですね。それにさらに重要なお話として、神奈川らしさを失わない環境、そういう細かな配慮の上での開発というようなことで、交通ネットワークについては踏み込んで議論していただいて、さらに湘南の海岸、ニッチカルチャーみたいなものとのネットワークとの連携交流みたいなお話があったのですね。生活スタイルとか、そういったものを踏まえて、さらに歴史、文化といったものを生かした地域魅力の発信というようなお話、今ざっとお話させていただきましたが、どうでしょう。残りの数分ですけれども、皆さんから、このところは注意した方がいいよとか。

○ 蓑宮委員：この前、会津若松に行っても、もう商店街がシャッター街になっているのですよね。ところが、一番資本を投下したのが街中、水道、電気、ガス、みんなありながら、結局権利の問題や何かで、高校生でも大学生でもお店みたいなものをやりたいとか、シニアの人もやりたいわけだけど、まちそのものが、あれは規制か何かがいっぱいあるけど、こういう機会を含めてやるとかできるのだったら、ちょっとリフォームして長期滞在型のインバウンドとか、また都会の人が来て3、4日滞在するとか、何か空き家を活用することによって、リフォームすると大工さんも仕事ができるとか、野菜とか、いろいろなものがあるので、この長期滞在型もそうだし、リゾート型もそうだけど、空き家とか、商売をやっている街中も何かとげがあるような、僕はよく分からないのだけど、もったいないですよね。一番投資が進んでいる街中が、横浜とか、そういうのではないでしょうけど、三浦もそうだし、小田原、秦野、地方でそういう所を少し条例か何かで権利関係が絡まなければ、貸してあげますよ、という人はいっぱいいると思うのですよ。なぜかという、誰も住んでいないけど、壊すと固定資産税が7倍になるのですか。だから、みんな壊さない。でも、住んでいない。こんなばかなことはないのではないかと。だから、うまくその辺を。だって、もったいないですよ。いい所にあるのですよ。どうですか。

○ 山崎委員：鎌倉なんかは、結構そういうのが多いですね。今、逗子もだんだんそういう方向になってきていますね。

○ 蓑宮委員：これは非常に街並みも大事だし、一石二鳥で、外国人などは結構お金を安く滞在したい人もいますから、まずはそういうのをスタディして、全国でこういうことをやってうまくいったよというのがあるのならば、それを横展開できると、まち全体も活性化するのかな、インバウンドも増えるのかなど。

○ 山崎委員：今回、旅行会社のJTBが三浦半島の観光で、三浦半島の民泊に結構皆さん興味を持っていただいているということで、特に長井地区、漁港地区の民泊に皆さん興味を持っていたようです。

でも、民泊自体に法律で規制があるのか分かりませんが、そういうこともあるのですよね。なぜかというと、やはり漁師町の漁師さんの家にお泊まりして、子どもたちが漁師さんから伝統漁法とか、お母さんからアジのさばき方を教えてもらったり、そういうことが非常にいいと聞きますね。農業体験などは、正にそうだと思いますよね。

○ 富山委員：ここにもある、宿泊型観光というのがすごく、特に湘南は大事だなという意見を感じていて、宿泊施設が極端に少ない。泊まるという需要は、多分ある。でも、その宿泊施設をつくらうと思うと、いろいろな障害がある。もちろん大きいものは建てられないという理由もあると思いますし、大きいものを建てたら、逆に物価が高いし、湘南らしさみたいなものも失われる。だとしたら、今法律的に多分グレーだと思うのですが、民泊みたいなものとか、小規模な宿泊施設が上手にできてくる形が何かないのかなということには常に考えます。

○ 山崎委員：オリンピックのことを言うと、今ちょうどリオデジャネイロのプレオリンピックが終わりましたが、来年は本大会なのですが、選手村からレース海域まで非常に距離があるので、皆さんが近くの今あるホテルとか、宿泊施設をもう国別に借り切ってしまうような現象が起きているようです。2020年の東京オリンピックのときも選手村というものが想定されている場所がありますけど、恐らく今年、リオのプレオリがあつて、来年本大会が終わった直後から、セーリングだけで言うと、各国が湘南の宿泊施設を求めて、今ある場所を皆さんが予約を始めてしまうでしょう。それが、大会として許されているのですよ。そういう現象が起きるので、しかも2020年は皆さん、5年後という判断をしますが、1年前の2019年にはプレオリンピックをやるということになっていて、その前にもプレプレといって、今9種目がありますが、それぞれが世界大会をやる。相模湾でやるということになると、もう3年前から。実はもうリオが終わらないうちに、ニュージーランドのチームは葉山に来て練習しています。そういう現象が起きるので、意外と時間がない。意外と皆さん本格的に思っていないという意味なのだと思います。

○ 牛山座長：ありがとうございます。お時間が過ぎておりますが、先ほどのちょっとしたコメント、それから追加で今、企画に関する事とか、オリンピックでの、いろいろあ

るかと思いますが、今日の皆さんのご意見を整理して、それで次回出して、そこでまた皆さんからも、ということになるかと思うのですが、大体そんなところでよろしゅうございますか。

何か事務局からありますか。

○ 和泉政策局副局長：いいえ、特に。お時間いただきまして、本当にありがとうございました。

○ 牛山座長：それでは、この分科会を終了させていただきたいと思います。活発なご意見、ありがとうございました。